

◇編集後記◇

新しい年を迎え、JOH ならびに産業衛生学雑誌読者の皆さまに、ご挨拶申し上げます。

少子高齢化が進み、ますます女性が働き手として重要な役割を担ってきています。そのため政府は昨年、女性の活躍を目指して「育児休業3年」「待機児童を5年でゼロ」「上場企業に女性役員を1人」といった政策案を掲げました。男性も女性も社会の一員ですから、女性が働きやすい社会が実現するよう後押しすることはとても大事だと思います。しかし、子どもを長時間預け働くことを当然のように要求する社会になることはあまり健全なこととは思えません。たとえば24時間保育、病児保育の体制を整えることは、働く母親から見れば確かに必要な場面もないわけではありませんが、それより、女性はもちろん男性も、家に帰って家族と過ごす時間を大切に、さらには緊急であってもやむを得ない事情があれば家庭を優先することができるような働き方を重視することが、大切なことのように思います。子どもがいない労働者でも同様に、仕事以外の自分の時間を持つことは重要です。

「くるみんマーク」という取り組みがあるそうです。子育てに熱心な企業を認定する制度で、育児休業等をした男性労働者が1人以上いること、など一定の要件を満たした場合に、厚労大臣が認定するものです。2005年から10年の予定で進められていましたが、今年に入って2025年までの延長が決定されたとのニュースが流れていました。仕事と子育ての両立支援に効果があったことが延長の理由とのことで、これまでに1,700社が認定を受けたようですが、まだあまり浸透していないように思います。

女性が働きやすい社会は、男性にも高齢者にも今より働きやすい社会になるのではないかと思います。JOH ならびに産業衛生学雑誌では様々な視点から、働く人々の健康に焦点をあてた論文を求めています。人々が職場でも地域でも家庭でも、それぞれの役割を担いながら、健康な暮らしを送れる社会を目指して、今年も多くの方からの投稿を歓迎いたします。

(玉腰暁子)

正誤表

産業衛生学雑誌 第55巻第6号

- A123 誤：圓藤副理事長 正：圓藤理事長
A124 誤：振動生涯研究会 正：振動障害研究会

「産業衛生学雑誌」編集委員会

委員長：笠島 茂 (三重大)

副委員長：樺田尚樹 (国立保健医療科学院)、杉森裕樹 (大東文化大)、高尾総司 (岡山大)、
武林 亨 (慶應大)、玉腰暁子 (北海道大)、那須民江 (中部大)、西田和子 (久留米大)、
平工雄介 (三重大)、藤野善久 (産業医大)、八谷 寛 (藤田保健衛生大)

編集委員：石竹達也 (久留米大)、井上和男 (帝京大)、植嶋一宗 (津保健福祉事務所)、
小笹晃太郎 (放射線影響研)、萱場一則 (埼玉県立大)、川口陽子 (東京医歯大)、熊谷信二 (産業医大)、
黒沢洋一 (鳥取大)、近藤尚己 (東京大)、酒井一博 (労働科学研)、佐々木美奈子 (東京医療保健大)、
菅沼成文 (高知大)、田中昭代 (九州大)、土井由利子 (国立保健医療科学院)、中尾陸宏 (帝京大)、
中村裕之 (金沢大)、馬場園明 (九州大)、原田浩二 (京都大)、福島哲仁 (福島県立医大)、
堀口兵剛 (秋田大)、丸山総一郎 (神戸親和女子大)、三木明子 (筑波大)、三宅達郎 (大阪歯大)、
村田勝敬 (秋田大)、毛利一平 (三重大)、大和 浩 (産業医大)、吉田貴彦 (旭川医大)、
渡邊博且 (産業医大)

客員編集委員：梅津美香 (岐阜県立看護大)、田中紀子 (国立国際医療研究センター)、中田光紀 (産業医大)、
東 尚弘 (東京大)、八幡勝也 (産業医大)